彼岸法要の後

メゾソプラノとピアノ

ぷろぐらむ

いのちの名前／花は咲く／瑠璃色の地球 / 青い鳥
竹とんぼに／風をみた人／トロイメライ　　その他

ぷろふぃーる

阿部知花　メゾソプラノ
埼玉県 新座市出身。国立音楽大学演奏・創作学科声楽専修卒業、オペラソリストコース修了。同大学院修士課程声楽専攻歌曲コース修了。2019 年、2024 年イタリア・ミラノにて Luca Gorla 氏のマスタークラスを受講。
現在、国立音楽大学大学院演奏助手。

庄恵理香　ピアノ
群馬県出身。国立音楽大学演奏・創作学科鍵盤楽器専修 (ピアノ) 卒業。同大学大学院修士課程器楽専攻 (鍵盤楽器ピアノコース) 修了。
現在、音楽教室講師を務めながら、演奏家として声楽や器楽、合唱等の伴奏やソロでの演奏など幅広く活動している。

境内の北、旧中山道に面したところにある、伝道掲示板の令和６年９月に掲載するものを紹介します。

伝道掲示板 blog版から

伝道掲示板には１ヶ月にひとつの言葉を紹介しています。経典の引用であったり、詩や小説のなかの言葉であったりします。道ばたの１メートル四方の掲示版ではお伝えできない、ことばの周辺は blog に載せています。

九月のことば

スマホを持つ手に
数珠をもとう

秋彼岸の九月。今月の言葉は八月の言葉の続きです。八月の言葉はというと、「炎天や念珠にぎりて身を支ふ」。作者は越前春生さん。日経新聞俳壇（令和五年八月五日）への投稿句です。頼るものがないと、しのげないような酷暑に、この句の作者は念珠を握りしめました。

困ったときに、何を頼るかは、人それぞれでしょう。たとえば道に迷ったとき、スマホの地図を見る人が多いのでは。私も、特に僧衣を身につけている時なんか、カッコウ悪いと思いつつも、見てしまいますねー。

スマホは、すでに手もとから離せない道具になってしまったけれど、離さなければならない、絶たなくてはならない時もある。昨春、修行道場へ掛搭（かとう＝入門）したわが子は当然ながらスマホなんて持たずに道場の門をたたいた。これはずいぶんと特殊な例だけど、身近にもいるはずです。スマホの誘惑を拒絶しなければならない人間が。

日経新聞朝刊に、「受験考」という連載があります。今夏七月二十九日付けのタイトルは「ゲーム絶てるか、挑戦の夏」。執筆者は学習塾の講師です。どういう記事かというと、「塾に通ってくる中学三年のユウヤの成績が下がった。理由を尋ねると、1日2時間近くスマートフォンでオンラインゲームをしているという」。そこで、「1日何時間勉強するのか。スマホとの付き合い方はどうするのか」を話し合います。全部で千字ほどの記事は次のようなことばで結ばれています。

「ユウヤの夏は彼自身の挑戦でもあり、我々の挑戦でもある」、と。

これは珍しくない、どこにでもある当節の現実でしょう。だから、スマホを絶つための書籍もでているし、ネットにも方法がいくつも載っているようです。と書いて笑ってしまいます。ネットを見ないための方法をネットでしらべなくてはならないほど、誰も重障になっているのです。そこで、提案です。

スマホを持つ手（腕）に、ブレスレット式の数珠を持たないですか。スマホを見ようとした時、数珠も見える。そこで、思うのです。「今は我慢」。ちなみに、九月のことばは自作です。自作は珍しいのですが、このことばで「２０２４お寺の掲示板大賞」に応募しようと思っています。

【編集後記】２

◇（表面から続きます）般若心経は２６２文字といわれます。数えていません。そう書かかれていているから、そうなのでしょう。

◇前述した季刊誌『禅文化』の特集「日本人と『般若心経』」には、昭和の名僧と敬われた山田無文老師（一九〇〇～八八）の過去に出版された著書から転載された文章も載っています。次のように書いておられます。

「なにぶん二百七十二文字という短い経典でありますが、この中に仏教のもっとも肝心な真理が盛られていると思うのであります」。エー。般若心経は２６２文字ではないの。今回、転載した時のミスか。ちがうんですねー。『禅文化』の編集者は、無文老師の原稿の二百七十二文字とある横に、（ママ）とふりがなを振っているのです。

◇（ママ）というのは誤り、あるいは適当な表現ではないけれど修整しないでそのママにしておきます。という校正記号らしい。でもねー、無文老師は禅文化研究所の所長を長く勤めたし、こっそりと直してしまえばよいのに、と思うけれど、間違いもいつわりのない記録、ではあるのですが。

◇般若心経同様に短いことは良いことです。寺の行事も短く、と思っています。だからでしょうか。八月十五日の施餓鬼（せがき）にも多くの方が参拝してくださいました。人数を数えていないけれど、用意した椅子の数から推定して百三十名以上の方が、水向け焼香して帰られました。短いなかにも「肝心な真理」を盛り込めた法要にしたいのですが、いかがでしたか。